

七ヶ浜町震災復興事業関連 遺跡調査報告 1

平成24～26年度・27年度(1) 東日本大震災復興交付金
埋蔵文化財発掘調査事業に伴う発掘調査報告書

平成28(2016)年3月

宮城県七ヶ浜町教育委員会

七ヶ浜町震災復興事業関連 遺跡調査報告 1

平成24～26年度・27年度(1) 東日本大震災復興交付金
埋蔵文化財発掘調査事業に伴う発掘調査報告書



巻頭写真1 菖蒲田浜地区 (2015年撮影)



巻頭写真2 花渚浜地区 (2015年撮影)



巻頭写真3 吉田浜地区 (2015年撮影)



巻頭写真4 高山横穴墓群・二月田貝塚・表浜貝塚出土遺物

1~4: 高山横穴墓群1・2号墓出土 5: 二月田貝塚出土土象嵌土製品 6: 表浜貝塚出土「宮木」刻書土器

序 文

七ヶ浜町の文化財保護行政に対しましては、日ごろから多大なるご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。

松島湾に臨む七ヶ浜町は、13.19km²と県内で最も面積の小さい町ですが、国史跡大木囲貝塚をはじめ、40ヶ所以上の遺跡が分布しており、縄文時代から人々が営々と暮らしてきた生活の痕跡をいたるところで見つけることができる、文化の薫り高い町です。

平成23年3月11日の東日本大震災はこうした町の姿を一変させ、地域の貴重な文化財に甚大な被害をもたらしました。当町は平成24年3月に七ヶ浜町震災復興計画を策定し、震災から1日も早い復興を遂げようとこれまで努力してまいりました。当教育委員会としましては、着実な復興の進展とともに、先人が残した貴重な文化財を将来に残すべく、これまで被災文化財の修復に対する支援を行ってまいりました。震災から5年を経た現在、災害公営住宅や高台住宅団地の整備が完了し、住宅の再建や土地区画整理事業が進むなど、少しずつですが新たな七ヶ浜町の姿が見えて参りました。

本書は、平成24～27年度に七ヶ浜町が震災復興交付金を受けて実施した、復興関連遺跡の調査成果をまとめた報告書です。調査では、表浜貝塚から「宮木」の刻書のある土器が出土し、二月田貝塚から県内では珍しい玉象嵌土製品や弥生時代中期のクルミ・トチが出土するなど、本町の歴史像の解明につながる新たな資料の発見がありました。

本書が復興事業の推進と埋蔵文化財保護の両立を図る資料として今後長く活用されるとともに、復興に向けて努力するわれわれ町民の心の復興にも貢献できるものとなれば幸いです。

最後になりましたが、埋蔵文化財調査に際しまして、ご理解とご協力をいただきました関係機関の皆さまに厚く御礼申し上げます。

平成28年3月

七ヶ浜町教育委員会

教育長 武 田 光 彦

例 言

1. 本書は、「東日本大震災復興特別区域法」に基づき、七ヶ浜町が作成した「復興交付金事業計画」に対して復興庁が交付した「東日本大震災復興交付金」により平成24～26年度及び27年度（4月～8月末）に七ヶ浜町教育委員会が行った「埋蔵文化財発掘調査事業（A-4事業）」による埋蔵文化財発掘調査（確認調査）報告書である。
2. 本書は、諏訪神社前遺跡、長須賀遺跡、高山横穴墓群、峯貝塚（隣接地）、二月田貝塚（隣接地）、表浜貝塚、林崎貝塚、阿川沼貝塚、沢上貝塚、東原遺跡、二月田貝塚、神明遺跡、笹山貝塚、鼻節神社遺跡の調査を掲載している。
3. 発掘調査における現場写真撮影に使用した機材等は以下のとおりである。
カメラ：Nikon D90 レンズ：AF-S NIKKOR 18-105mm
4. 一部の調査において、遺構平面図・トレンチ配置図の作成の際に下記の機材等を使用した。尚、諏訪神社前遺跡のトレンチ配置図の作成については、佐野コンサルタンツ株式会社に委託した。
遺構実測支援システム：CUBIC社製 遺構くんver.2013・ver.2014・Ver2015
5. 本書に掲載した遺構実測図等のトレース、画像処理等には下記のソフトウェアを使用した。
Adobe社製 Illustrator CS4・CS6／Photoshop CS6
6. 林崎貝塚出土炭化物の放射性炭素年代測定は株式会社加速器分析研究所、二月田貝塚出土種実の放射性炭素年代測定は株式会社パレオ・ラボにそれぞれ委託した。
7. 出土遺物の写真撮影は、株式会社アートプロフィールに委託した。
8. 本書に掲載した遺構実測図のトレース、遺物実測図の作成およびトレース、遺物拓本、図版レイアウトなどは田村正樹・伊藤美輪・木村由美子・虎井優子・矢竹真由美・吉田麻美が担当した。尚、遺物実測にあたり、佐藤敏幸（東松島市教育委員会）、佐藤佳奈（石巻市教育委員会）の協力を得た。
9. 本書の執筆は、長須賀遺跡（24年度調査分）及び高山横穴墓群については古田和誠（宮城県教育庁文化財保護課）が執筆・編集したものを基に田村が再構成し、その他は田村が執筆した。報告書の編集、図版の版組みは田村が行い、これらの校正・照合を伊藤美輪・木村由美子・虎井優子・矢竹真由美・吉田麻美が担当した。
10. 調査で出土した遺物及び図面・写真等の記録資料については、七ヶ浜町教育委員会が管理し、七ヶ浜町歴史資料館で一括保管している。
11. 発掘調査および資料整理、本書の作成に際し、以下の諸機関・諸氏よりご指導・ご助言ならびにご協力を賜った。ここに記して、心より謝意を表します。
相原 淳一・江川 達也・遠藤 武・岡村 道雄・小野 章太郎・片岡 太郎・菊地 逸夫
菊地 芳朗・後藤 和久・児玉 大成・佐々木 理・佐藤 敏幸・佐藤 佳奈・関根 達人
高橋 栄一・高橋 義行・富岡 直人・豊村 幸宏・中野 幸大・成田 滋彦・三好 秀樹
藤沼 邦彦・福田 友之・古田 和誠・松本 秀明・村田 晃一・柳澤 和明・山中 信宏
山田 晃弘
東北大学災害科学国際研究所・東北大学総合学術博物館・宮城県教育庁文化財保護課・宮城県仙台土木事務所河川課・宮城県仙台地方振興事務所農業農村整備部・佐藤工業株式会社・玉野総合コンサルタント株式会社

凡 例

1. 本書の第1図及び各遺跡の位置図は、国土交通省国土地理院発行の1/25,000及び1/50,000地形図「塩竈」を複製・加工して使用した。
2. 本書で使用した土色の記述については、『新版標準土色帖』（小山・竹原2011）を使用し、肉眼により観察を行ったものである。
3. 各調査区の層序は算用数字で表記した。また、土層断面図では、下記の略号を使用して記載した。P：土器 S：礫
4. 本書で使用した遺構略号は、『発掘調査の手引き』（文化庁文化財部記念物課2010）を参考に、種別ごとに下記の略号を用いた。
SL：炉跡 SK：土坑 SX：性格不明遺構、その他の遺構
5. 遺構・遺物実測図の主な縮尺は下記のとおりで、各図中にスケールを付して示した。
トレンチ配置図：1/1,000、1/1,500、1/2,000、遺構配置図：1/600、1/1,000、1/2,000、断面図：1/40、1/60、土器類：1/3、1/4、土製品：1/3、石器：1/3、骨角製品：1/2、1/3、鉄製品：1/3
6. 遺物実測図において、土器類の実測図については、須恵器断面をスクリーントーン（黒色透明度50%）、その他の土器類を白抜きとした。また、黒色処理が施された土師器については、スクリーントーン（黒色透明度30%）により示した。
7. 遺物写真の縮尺は、土器の立面・俯瞰、石器・骨角製品・鉄製品の俯瞰すべて1/2または1/3である。
8. 遺物観察表内の法量について、器高に（ ）を付した数値は残存部分の計測値、口径・底径に（ ）を付した数値は復元値を示し、欠損などにより計測できなかったものは「-」を付した。また、数量については、基本的に長さ及び重さの単位は「cm」、「g」である。
9. 本書中の「灰白色火山灰」とは、東北地方に広く降下した広域火山灰である。これまでの宮城県内及び東北地方中・北部の研究から平安時代に降下した「十和田a火山灰（To-a）」と考えられている。降下年代は文献の記載を根拠に西暦915年とする説と考古学的成果から907～934年の間とする説があることから、本書では後者の説に近い10世紀前半頃との年代観で捉えている。
10. 引用文献及び本書執筆にあたり参考とした文献については、巻末に一括して掲載した。

目 次

序 文 例 言 凡 例 目 次

第1章 調査計画と実績	1
第1節 調査体制	
第2節 調査計画と実績	
第3節 調査方法	
第2章 震災復興事業関連遺跡の発掘調査（確認調査）	
1 諏訪神社前遺跡	4
2 長須賀遺跡	7
3 高山横穴墓群	18
4 峯貝塚（隣接地）	19
5 二月田貝塚（隣接地）	22
6 表浜貝塚	25
7 農山漁村地域復興基盤総合整備事業関連遺跡	
7-1 林崎貝塚	53
7-2 阿川沼貝塚	74
7-3 沢上貝塚	77
7-4 東原遺跡	77
7-5 二月田貝塚	82
7-6 神明遺跡	91
7-7 笹山貝塚	93
7-8 鼻節神社遺跡	96
第3章 自然科学分析	
第1節 林崎貝塚出土炭化物における放射性炭素年代測定（AMS測定）	99
第2節 二月田貝塚出土種実における放射性炭素年代測定（AMS測定）	102
引用・参考文献	105

遺構・遺物写真図版

1	諏訪神社前遺跡	
	遺構写真：写真図版 1	109
2	長須賀遺跡	
	遺構写真：写真図版 2～5	110
	遺物写真：写真図版25	133
3	高山横穴墓群	
	遺構写真：写真図版 6	114
	遺物写真：写真図版26	134
4	峯貝塚(隣接地)	
	遺構写真：写真図版 7	115
5	二月田貝塚(隣接地)	
	遺構写真：写真図版 8	116
6	表浜貝塚	
	遺構写真：写真図版 9～12	117
	遺物写真：写真図版27・28	135
7	農山漁村地域復興基盤総合整備事業関連遺跡	
7-1	林崎貝塚	
	遺構写真：写真図版13～17	121
	遺物写真：写真図版29	137
7-2	阿川沼貝塚	
	遺構写真：写真図版18	126
7-3	沢上貝塚	
	遺構写真：写真図版19	127
7-4	東原遺跡	
	遺構写真：写真図版20	128
7-5	二月田貝塚	
	遺構写真：写真図版21	129
	遺物写真：写真図版30・31	138
7-6	神明遺跡	
	遺構写真：写真図版22	130
7-7	笹山貝塚	
	遺構写真：写真図版23	131
7-8	鼻節神社遺跡	
	遺構写真：写真図版24	132

報告書抄録

第1章 調査計画と実績

第1節 調査体制

本書に掲載した埋蔵文化財の発掘調査と整理作業は宮城県教育庁文化財保護課の協力・助言を得ながら、七ヶ浜町教育委員会が主体となり、生涯学習課文化財係（七ヶ浜町歴史資料館）が担当した。職員の体制は下記のとおりである。

教 育 長 武田 光彦
生涯学習課長 鈴木 俊博（平成24～26年度） 庄子 克也（平成27年度）
文化財係長 鈴木 喜雄（平成24・25年度） 菊池 克宏（平成26年度～）
主 査 田村 正樹
非常勤職員 川村 正・佐々木 広美・虎井 優子（平成24・25年度）
川村 正・鈴木 喜雄・佐々木 広美・小澤 恵（平成26年度）
鈴木 喜雄・佐々木 広美・小澤 恵（平成27年度）

発掘調査作業員

平成24年度 佐藤 光智・佐藤 要市・櫻井 良博・舟山 武・吉田 麻美
平成25年度 木村 由美子・齋藤 隆行・佐藤 光智・佐藤 要市・廣野 徳・舟山 武
矢本 聡子・吉田 麻美
平成26年度 齋藤 隆行・佐藤 光智・佐藤 要市・廣野 徳・矢本 聡子
平成27年度 赤間 正雄・佐藤 要市・廣野 徳・舟山 武・矢本 聡子

資料整理作業員

平成24年度 佐藤 光智・佐藤 要市・櫻井 良博・舟山 武・吉田 麻美
平成25年度 木村 由美子・齋藤 隆行・佐藤 光智・佐藤 要市・廣野 徳・舟山 武
矢本 聡子・吉田 麻美
平成26年度 虎井 優子・矢竹 真由美・吉田 麻美
平成27年度 伊藤 美輪・木村 由美子・虎井 優子・矢竹 真由美・吉田 麻美

第2節 調査計画と実績

本書で報告する調査は、復興庁より復興交付金事業の基幹事業に位置付けられる「埋蔵文化財発掘調査事業（A-4事業）」の「東日本大震災復興交付金」を第1回目の申請（平成24年3月）にて得て、七ヶ浜町域の埋蔵文化財包蔵地（第1図）を対象として平成24～26年度及び27年度（4月～8月末）に実施したものである。

個人及び中小企業等による復興事業に伴う確認調査・本発掘調査については、事前協議や計画変更等によりこれまで調査に至る事案はなかった。七ヶ浜町及び宮城県等による復興事業に伴う確認調査については、事業計画を受け、早期に遺跡の範囲、内容等を把握し調整等を図るために、平成27年8月末現在で9事業14遺跡（遺跡隣接地を含む）の調査を実施した（第1表）。内訳は平成24年度が4事業4遺跡、25年度が3事業3遺跡、26年度が2事業9遺跡である。27年度が1事業1遺跡である。

第3節 調査方法

調査は、復興事業計画地内において遺跡の範囲、時代、内容等を把握すること目的とし、宮城県教育庁文化財保護課の指導・助言を受けながら、最小限の規模の調査とした。事業主体者より提供を受けた計画概要、計画図面を基に、調査方法や調査箇所を決定した。その後地権者の同意を得て、計画範囲に対して、重機及び人力で表土や盛土などを除去し、遺構面まで掘削した。掘削後、人力で精査